

クラシックギターの取り扱いについて

この度はクロサワ楽器をご利用いただき誠に有難うございます。
大切な楽器を末永くご愛用いただくために、以下の内容を
ご一読いただき、ご注意いただくようお願い致します。

保管方法

一日の終わり、保管時には弦を緩めて下さい。

通常のチューニングでの張力は約50kg 前後といわれています。長時間にわたり弦を張った状態が続くと、表板の変形やネック反りなどの他、ギターに重大な故障をもたらす可能性がございます。一日以上演奏をしない時は、弦を1 音前後（1～2 回転程度）緩めて下さい。

湿度・温度を管理して下さい。

天然の木を材料とするクラシックギターは湿度変化に敏感です。出来る限り湿度40%～60%以内で保管できるように湿度計の使用をお勧めします。

60%を超えるような高い湿度では木材の膨張や金属パーツの錆びなどが起こります。直射日光が当たらずなるべく風通しの良い場所に置いて、除湿器またはエアコンなどをご使用ください。

40%以下の低い湿度では木材が乾燥し、ヒビが発生したり割れることがあります。押入の中など湿度の高い場所に置き、室内に湯気を立てるか加湿器などをご使用下さい。

また、温度の上下により湿度も変化します。高すぎる温度や低すぎる温度もまた楽器に良い影響をあたえません。

上記のことをご理解いただき、保管は行き届いた湿度管理の元で行うか、少なくともケースに入れて保管してください。

化学製品や薬剤にお気をつけ下さい。

ギターの塗装には幾つかの種類がございますが、何かが付着したり長時間何かに触れることにより、塗装が変質することがございます。

お手入れの際は柔らかいクロスで乾拭きして下さい。特にポリッシュなどを使用する場合は、白濁などの原因となることがありますので、一度ボディの目立たない箇所を試すことをお勧めいたします。またゴム製品のギタースタンドやカポタスト、演奏を補助する道具、保護フィルム、滑り止め類なども塗装を侵す危険がありますので、楽器に触れる製品のご使用には十分お気をつけ下さい。

基本的なチューニングの合わせ方

実音によるチューニング方法

最初にギターの第5 弦の何も押さえない開放の音を、音叉・チューニングメーター（チューナー）などを使って、A=440Hz に合わせた後、以下の方法で各弦を合わせます。

- ①第5 弦の開放と第6 弦の第5 フレット（合わせる弦：6 弦=E）
- ②第5 弦の第5 フレットと第4 弦の開放（合わせる弦：4 弦=D）
- ③第4 弦の第5 フレットと第3 弦の開放（合わせる弦：3 弦=G）
- ④第3 弦の第4 フレットと第2 弦の開放（合わせる弦：2 弦=B）
- ⑤第2 弦の第5 フレットと第1 弦の開放（合わせる弦：1 弦=E）

※チューナーを使うことで、初心者の方でもチューニングができます。使用方法については、それぞれの製品添付の説明書をお読み下さい。

※ハーモニックスはおおよその調整のために使ってください。ハーモニックスのみで合わせると音程が合わないことがあります。

弦高調整・定期点検

ギターの調整には経験が必要ですので、専門のリペアマンにご依頼下さい。

ナット・サドルの調整

ナットの溝、サドルの高さを調整することで、弦の高さ（弦高）を調節できます。低くしすぎるとビリつきなどの雑音が出る場合がございますので、ご注意ください。

定期点検

ご購入いただきました楽器の点検は、ご購入店舗にて無料にて承っております。定期的に点検することでトラブルを未然に防ぐことができます。点検時期の目安はご購入されてから1ヶ月後と、その後は3ヶ月ごとです（目安ですので、お客様のご都合でかまいません）。保証期間終了後でも、無料点検を行います。楽器に特定の変化が生じていた場合、それに応じた保管方法や使用方法をアドバイスさせていただきますので是非ご活用下さい。

消耗品・糸巻き

消耗品について

弦、糸巻き、ナット、サドル、フレットは消耗品です。長期間使用すると、劣化・磨耗などにより交換する必要があります。消耗品の交換は保障期間内でも有償となります。

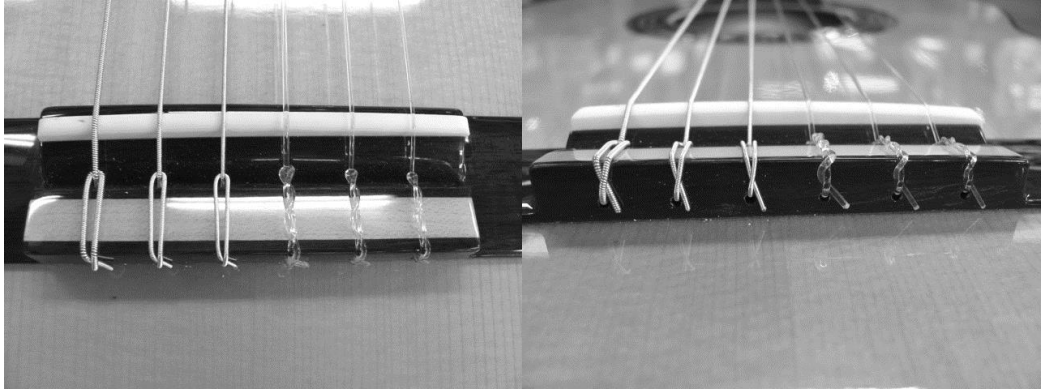
糸巻きのお手入れ

糸巻きがキーキー鳴ったり、硬くなったら糸巻きのギア部分に微量のシリコンオイルまたはグリスを綿棒などに付け、塗布すると改善されます。塗布の際は、ギアに直接吹き付けたり、多量に使用すると埃などが付着しやすくなり、硬くなるなどの故障の原因となりますのでご注意ください。

弦の取り付け方

ブリッジ部分

ブリッジに空いている小さな穴に、サウンドホール側より弦の先端を入れ、図のように固定します。 ナイロン弦は①②弦は3 回、③弦は2 回巻きつけて滑りにくくします。特にサバレス アリアンスなどの特に細い弦を取り付ける際には①弦を4 回巻きつけることをお勧めします。



糸巻き部分

糸巻きについている小さな穴に弦の先端を入れ、ゆるみがないように引っ張った後、滑らないように本体側より通してある弦と1,2 回絡めるようにして、巻き取ってください。雑音の原因になる場合がありますので、弦の余った部分は、調整時に弦を取り外しても再び取り付けることが出来るように、4cm 程度の部分から切ることをお勧めいたします。



※弦を取り外した際にナット、サドルが外れる場合がありますが、故障ではありません。弦の取り付け方法が悪いと、チューニングした際に弦がはずれて楽器が傷つく場合があります。弦交換の際には、楽器を傷つけないように表板のブリッジ下部分に厚紙などをあてることをお勧めします。

Memo

ご不明な点がございましたらお気軽に下記お問い合わせ先にご連絡下さい。

クロサワ楽器店ドクターサウンド クラシックギター専門フロア

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-22内外地図ビル3F

03-3233-2017

https://www.kurosawagakki.com/sh_dr/indexcg.html

店印：

担当者印：